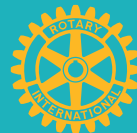




ロータリー：
変化をもたらす

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ



会報

2017 ▶ 2018
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ
会長目標

親睦と奉仕で作る友の輪

会長／森 幹雄 幹事／阿部 洋一

プログラム

●本日
地区研修・協議会報告会

結婚記念日
松岡 賢一

●次週予定
夜間通常例会

No. 2778
第31回 4月18日

出席報告

前例会

会員総数……………36名
出免会員……………4名
出免出席……………4名
基準会員出席……………20名
出席率……………66.67%

前々々

第28回 3月14日

欠席会員……………13名
内メイクアップ……………7名
修正出席率……………82.86%

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

🖋️ 会長報告 ……………

- 3月29日に第10回定例理事会を開催し、3月会計の中間報告、4月5月例会プログラム、創立記念慶祝夜間例会報告、財界さつぼろ掲載記事について、深川IMの事例発表者の選出がなされました。
- 訃報のお知らせです。留萌クラブ元会員の阿部慶一さんが4月3日午前9時13分にご逝去なされました。満80歳でございました。通夜は4月5日午後6時30分読経開始、告別式は6日午前10時、11時出棺で、錦堂花屋留萌花園市民斎場となっております。ご冥福をお祈りいたします。

📁 幹事報告 ……………

- 深川で開催されますIMの出欠確認をしております。締め切りは4月17日となっておりますので、よろしくお願いいたします。
- 本日60周年検討委員会を開催いたします。関係者はよろしくお願いいたします。

ゲスト

国際ロータリー第2510地区
第1グループガバナー補佐 轡田 光章様
平昌オリンピック日本代表 伊藤 有希様

ビジター

深川ロータリークラブ会長 荒谷 壽八様
IM実行委員会幹事 渋谷 賢治様

委員会報告

社会奉仕委員会 青山委員長

4月6日(金)午後4時30分より、四十坊前に於いて春の交通安全旗の波運動が開催されます。多くの会員の出席をお願いします。30分程度ですのようしくお願いします。

ニコニコBOX

- 轡田ガバナー補佐、新谷深川RC会長、渋谷IM実行委員会幹事の皆様ようこそおいてくださいました。また、伊藤有希さん今日の日を一日千秋の思いでお待ちいたしておりました。歓迎いたします。 森(幹)会長
- おじゃまします。 轡田ガバナー補佐
- 誕生日でした。皆様ありがとうございます。 58歳になります。 西原会員
- 伊藤有希さん、留萌RCにお越しいただきありがとうございます。 鶴城会員

前回 718,079円
今回 15,000円
累計 733,079円

ガバナー補佐挨拶

2510地区第1グループ

ガバナー補佐 轡田 光章様

本日は5月に開催するIMのお願いにあがりました。

昨年7月から12月までの上半期の報告会が、登別グランドホテルにおいて新会員セミナーを兼ねて1月27日~28日に開催され、出席して参りました。皆様には8月の国立ガバナーの公式訪問以来、植樹の事業、函館における地区大会と会員皆様には大変ご協力いただきました事をお礼申し上げます。国立ガバナーからも感謝の言葉を戴いておりますので、報告させていただきます。

後期に入りまして、各グループはIMが盛んに開催されるようになりましたが、第1グルー

プも深川市において、5月20日(日)午後1時の点鐘にて開催する事になっております。妹背牛RCとの合同開催とさせていただきます。これから、深川の新谷会長から皆様にお願ひがありますのでお聞きください。

深川RC会長 荒谷 壽八様

先ほど轡田ガバナー補佐より挨拶がありましたが、5月20日に深川市において第1グループのIMを開催いたします。沢山の方のご出席をお願いしたく、本日やって参りました。よろしくお願ひします。

IM実行委員会 幹事 渋谷 賢治様

深川クラブ在籍28年目を迎えた渋谷でございます。轡田ガバナー補佐の下、IMの実行委員会の幹事に自ら立候補をさせて頂きました。それは何故かと申しますと、3年前に深川にて開催したIMにて大好評であった、歌合戦をまた皆様と一緒にやりたいと思ったからでございます。留萌クラブさんがあずさ2号にて大いに盛り上がったのが記憶にあります。

今回のテーマはズバリ「男女デュエット歌合戦」という事で、審査委員長には国立金助さんをお呼びいたしておりますので、よろしくお願ひします。

IMは「広い心で世界に奉仕を、環境保護と地域貢献」というテーマで開催いたします。クラブ発表はそれぞれの皆様に、環境保護、地域貢献につきまして発表を各10分間ずつお願ひをいたします。また、今回の基調講演は丸山PGにお願ひをしておりますので、何度も笑顔が出て来るお話になると思います。ロータリーの友情に免じまして、IMを盛り上げていただければと思っております。

留萌さんや羽幌さんの様に海の物などおいしい物はありませんが、そこは気持ちで答えると思っておりますので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

プログラム……………

来賓卓話「夢から目標の実現に向かって」

平昌オリンピック日本代表 伊藤 有希 様

皆様こんにちは。いつも沢山の応援をありがとうございます。土屋ホームスキー部の伊藤有希です。本日、皆様の前でこの様にお話をさせていただく機会をいただき、ありがとうございます。

実は以前にも他の場所からこの様なご依頼を受けていたのですが、基本的にはお断りをしています。その理由は私自身23歳であり、皆様の様な経験豊富な方々に私の様な話で良いのかという気が引ける思いがありますので、お断りをしていました。ただ、本日は私の母が留萌生まれで、私自身も小さい頃から留萌でお世話になっておりましたし、翔萌会という女子ジャンプの後援会も作っていただいた留萌市の皆さんという事で、今回卓話を引き受ける事になりました。慣れない事なので意を尽くせないかもしれませんが、精一杯お話したいと思いますので、本日はよろしく願います。

私は1994年、ノルディック複合競技を行っていた父と、アルペン競技を行っていた母の間に、道北の下川町という町で生まれました。

下川町は、町面積の約9割が森林の町で、山に囲まれた盆地で、夏は35度以上、冬は-30度以下にもなる寒暖差の激しい町です。そして何と言っても、スキージャンプ競技においてはオリンピック選手を7名輩出しているジャンプの盛んな町です。

幼少期は、留萌市によく遊びに来ており、夏は黄金岬でイカ釣りをして遊んだり、高砂公園で遊んだりしていました。

冬は祖父と一緒に増毛町や小平町のスキー場にスキーに行っていました。当時3歳だった私は、祖父と一緒に急斜面コースに滑りに行った時、上手くターンする事が出来ず、直滑降の方が簡単だと考えたので、コースのほぼ頂上から直滑降で滑り下りて行きました。祖父は、まさか3歳の女の子が急斜面コースを直滑降してい



くとは思わなかった様で、とても驚いていたそうです。

そんな私が初めてジャンプを飛んだのは4歳の時でした。下川町の小さなスキー場に飽きてしまった私は、スキー場に隣接しているジャンプ台を気持ちよさそうに飛ぶお兄ちゃんたちに憧れてスキージャンプを始めました。

下川町は11月に初雪が降ってから雪が解ける4月まで、毎日1日中、圧倒的な練習量を積む事が出来ます。ジャンプ台の整備も父兄の方々が手伝いに来てくださいますし、町で会う方々も応援の言葉をかけて下さり、町ぐるみでスキージャンプを応援して下さる温かい町です。

私には物心ついた時から、オリンピックで金メダルをとるという夢がありました。これは、同じジャンプ台で練習した先輩方が世界で活躍する姿を見て、先輩方が抱かせてくれた夢です。

しかし、私は小学校6年生まで、女子ジャンプがオリンピックの種目がない事を知りませんでした。初めてそれを知った時はショックでしたが、同じ競技を続ける仲間がいたので、夢を諦めようとは思いませんでした。

中学生になると、大会や合宿が多くなり、留萌市に来られる機会は少なくなりましたが、それでも、雪解けでジャンプトレーニングが出来ない春休みやゴールデンウィークには留萌市に来てリフレッシュさせて頂きました。

海沿いをランニングするのはとても気持ち良かったですし、千望閣までの上り坂は辛かったのですが、とても良いトレーニングになりました。

そんな中2011年の春、女子ジャンプのオリン

第30回 4月4日(水) 天候/晴

ピック正式種目化が決まりました。夢が目標に変わった瞬間であり、トレーニングにもより一層力が入りました。

高校卒業までは、男子の中で女子一人、必死にトレーニングについていきました。

それが大きな自信にもつながっており、卒業後も社会人として、男子選手のいるチームで競技に専念したいと思っていたところ、同じ下川町出身の葛西紀明監督から「土屋ホームスキー部と一緒に世界一になろう」というお誘いを受け、入社を即決致しました。

土屋ホームスキー部には、葛西監督、平昌オリンピックで大活躍しました小林陵侷選手、3つ下の弟、伊藤将充と私の4人の選手がいます。

信頼するスタッフもいますし、スキー部事務局や後援会など、会社もサポートして下さり、とても恵まれた環境で競技をさせて頂いております。

社会人1年目で迎えたソチオリンピックは、女子ジャンプが初めて正式種目化された試合でしたので、私も含めて女子の選手は全員が初めての経験でした。

私のチームには、ソチオリンピックで7回目の出場だった葛西監督という心強い先輩がおりましたので、監督からの助言のお陰で平常心で試合に臨む事が出来ました。

オリンピックのスタート台に立った時、沢山の方々のお陰で私は飛ぶ事が出来ていると考えたと感謝の気持ちでいっぱいになりました。これがオリンピックなのだと感じました。

試合では、自分の納得するジャンプが出来ず7位と悔しい結果に終わってしまいましたが、本番2本目のジャンプを飛び終わってすぐに、また4年後、同じ舞台でリベンジしたいと思いました。

ソチオリンピック後は、平昌オリンピックでメダルを獲得するためにトレーニングに励みました。

そんな中、先シーズン、ワールドカップで初めて優勝する事が出来ました。私が優勝した事で多くの方々が喜んで下さり、また皆様の喜ぶ顔が見たいという思いが次への大きなパワーに

なりました。

春に留萌に来た時にも多くの方々に祝福の声を掛けて頂き、より一層、平昌オリンピックでメダルをとって喜んで頂きたいという思いが強くなりました。

そんな思いと共に臨んだ平昌シーズンではありましたが、助走路のポジションが定まらず、試行錯誤の日々が続きました。それでも、オリンピックでメダルをとるという目標に向かって調整し、着実に手応えを掴みながら現地に入りました。

トレーニングでは、今季一番のジャンプが出来ていましたし、迎えた試合当日は身体の動きも、イメージも今季一番でした。しかし、私の実力不足で、ジャンプを噛み合わせる事が出来ず、メダル獲得どころか入賞すらする事が出来ませんでした。

平昌オリンピックを目指す中で、本当に多くの方々に支えて頂き、応援して頂いたのにも関わらず、私は何も恩返しする事が出来なかったと思うと申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。

私自身、出来る限りの事はしてオリンピックに臨んだつもりでしたが、まだまだやる事は沢山あって、それが足りなかったからメダルがとれなかったのだと思いました。

今後またトレーニングし、4年後の北京オリンピックでは、いつも応援して下さいの留萌市の方々に黄金岬色のメダルをお見せ出来る様、精一杯努力したいと思います。